

PRESS RELEASE

アッヴィ合同会社 アラガン・エステティクス
NPO 法人 エンパワリング ブレストキャンサー

2023 年 9 月 27 日

～アラガン・エステティクス、乳がん罹患者を対象とした「アピアランスケア」に関する調査を実施～
乳がん罹患後に生じた外見の変化は「手術による傷跡(84.6%)」が最多、「手術(全摘)による乳房切除」も4割以上(41.3%)ある一方で、外見への対処は「ウィッグや医療用帽子による脱毛のカバー(45.9%)」が最も多く、乳房再建は1割以下という結果に

アッヴィ合同会社 アラガン・エステティクス(本社:東京都港区、プレジデント スザナ・ムルテイラ、以下、当社は、とNPO 法人 エンパワリング ブレストキャンサー(所在地:東京都目黒区、理事長:真水 美佳、以下 E-BeC)は、「乳房再建」の保険適用開始から10年となる今年、「乳房再建」は乳がん治療の一環としてのみならず、昨今注目度が高まっている「アピアランスケア」の選択肢の一つとしての側面があることの認知を広げるため、乳がん罹患経験者を対象に「アピアランスケア」に関する調査を実施しました。

調査結果のハイライトは以下の通りです。

【調査サマリー】

- アピアランスケアの認知度は21.1%。罹患者の78.8%は知らないと回答。(図1)
- アピアランスケアについての認知は高くないものの、「乳房再建」がアピアランスケアのひとつであると回答したのは79.5%(図2)。アピアランスケアの認知がある人は、乳がん罹患して生じた外見の変化への対処法として「乳房再建」を選択した人は、アピアランスケアの認知がない人の1.83倍という結果に。(図3)
- 罹患後に生じた外見の変化の上位は1位「手術による傷跡(84.6%)」、2位「手術(部分切除)による胸の変形(54.3%)」、3位「頭皮の脱毛(45.7%)」、4位「手術(全摘)による乳房切除(41.3%)」(図4)
- 罹患後に気になった外見の変化は「手術による傷跡」が49.7%で最多。次いで「頭皮の脱毛」が43.7%、「手術による乳房切除(全摘)」は31.6%、「手術(部分切除)による胸の変形」は31.5%と、乳房に関する回答が上位に入った(図5)
- 一方で、外見の変化への対処法の上位は、1位「ウィッグ(かつら)や医療用帽子による脱毛のカバー(45.9%)」、2位「該当なし(35.2%)」、3位「パットや下着などによる補正(28.6%)」となり、「乳房再建」は9.2%と少数派にとどまった(図6)

乳がんの罹患率は、がんの中でも日本女性がかかる割合(罹患率)がトップです。※1 特に、40代以降の罹患率が高く※2、治療を続けながら社会生活を送る人も増加しており、がん対策推進基本計画においても、がんとの共生としてアピランスケア(外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケア)が盛り込まれ※3 近年、「アピランスケア」に注目が集まっています。

「アピランスケア」とは医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアの全般を示す言葉です。ただ、各種がん治療のように定型化された方法はまだ確立されておらず、患者さん一人一人の外見の変化にともなう「気になること」に対する対応策を広く含めてアピランスケアとしてとらえられています。※4 今回の調査では、乳がん罹患経験者(208名)に「アピランスケア」に関する認知について調査を実施しました。

※1 公益財団法人がん研究振興財「がんの統計 2023」https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/statistics/pdf/cancer_statistics_2023.pdf 部位別がん罹患数(2019年) P23
※2 公益財団法人がん研究振興財「がんの統計 2023」 https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/statistics/pdf/cancer_statistics_2023.pdf 年齢階級別がん罹患 部位内訳(2019年) P24
※3 厚生労働省「第4期がん対策推進基本計画について」<https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/001091843.pdf> 第4期がん対策推進基本計画(令和5年3月28日閣議決定)概要 P2
※4: 国立がん研究センター中央病院 <https://www.ncc.go.jp/jp/noch/division/appearance/010/index.html>

【調査概要】

調査期間: 2023年8月10日(木)～2023年8月16日(水)

調査対象: 乳がん罹患経験者／有効回答数: 208名

地域: 全国／調査方法: インターネットによる調査

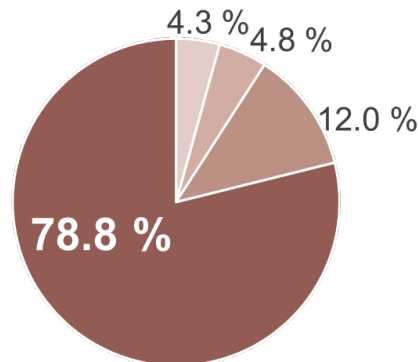
調査実施機関: 株式会社メディリード

【調査詳細】

■ アピランスケアの認知度について

「アピランスケア」とは医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアの全般を示す言葉ですが、「アピランスケア」を知らないと回答した方が78.8%と約8割に上りました。罹患経験者であっても「アピランスケア」そのものの認知が低いことがわかりました。

図1 Q アピアランスケアの認知度



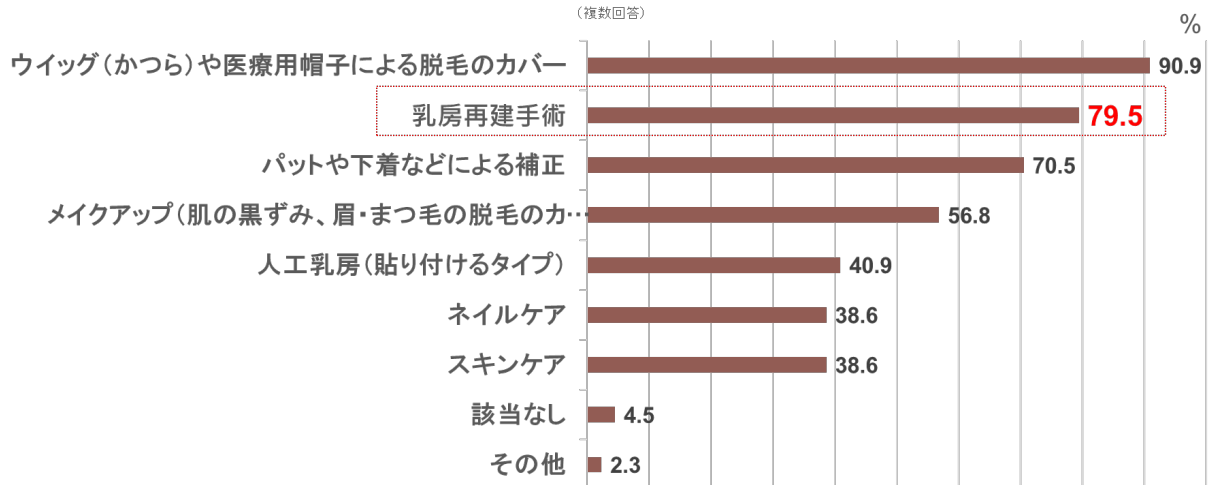
- はい、知っています(内容についても理解していて、他者にきちんと説明ができる)
- はい、知っています(内容についてもおおよそ理解している)
- はい、知っています(アピアランスケアという言葉は聞いたことがある)
- 知らない

n = 208

乳がんに関する「アピアランスケア」について、知っているものをすべて選択して下さいという質問では、ウィッグ(かつら)や医療用帽子による脱毛のカバー(90.9%)につづいて、乳房再建術が79.5%と2番目に多く、アピアランスケア自体の認知は高くないものの、乳房再建がアピアランスケアのひとつであるということは一定の認知があることが明らかになりました。

図2 Q 乳がんに関する「アピアランスケア」について、知っているものをすべて選択してください。

(複数回答)



n = 44

また、アピアランスケアの認知がある人のなかで、乳がん罹患して生じた外見の変化への対処法として「乳房再建」を選択した人は、アピアランスケアの認知がない人の 1.83 倍という結果でした。

図3 乳がん罹患して生じた外見の変化に対して行ったことはありますか？
あてはまるものをすべて教えてください (複数回答)

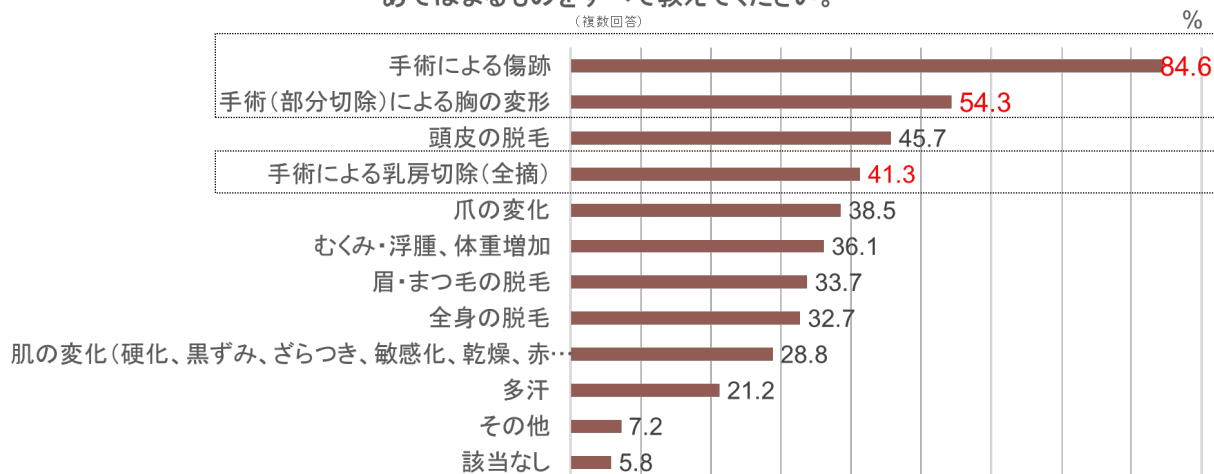
アピアランスケア認知	該当数(人数)	ウィッグ(かつら)や医療用帽子による脱毛のカバー	スキンケア	メイクアップ(肌の黒ずみ、眉・まつ毛の脱毛のカバー、アートメイク)	ネイルケア	パットや下着などによる補正	乳房再建手術	人工乳房(貼り付けるタイプ)	その他	該当なし
認知あり	42	52.4	26.2	21.4	21.4	33.3	14.3	4.8	4.8	23.8
認知なし	154	44.2	15.6	12.3	7.8	27.3	7.8	0.0	3.2	38.3

■ 罹患後に生じた外見の変化について

罹患後に生じた外見の変化の上位は、手術による傷跡(84.6%)、手術(部分切除)による胸の変形(54.3%)、頭皮の脱毛(45.7%)、手術による乳房切除(全摘)41.3%となりました。乳がんという疾患の特性上、上位には手術及び乳房に関する変化の声が多くあがりました。

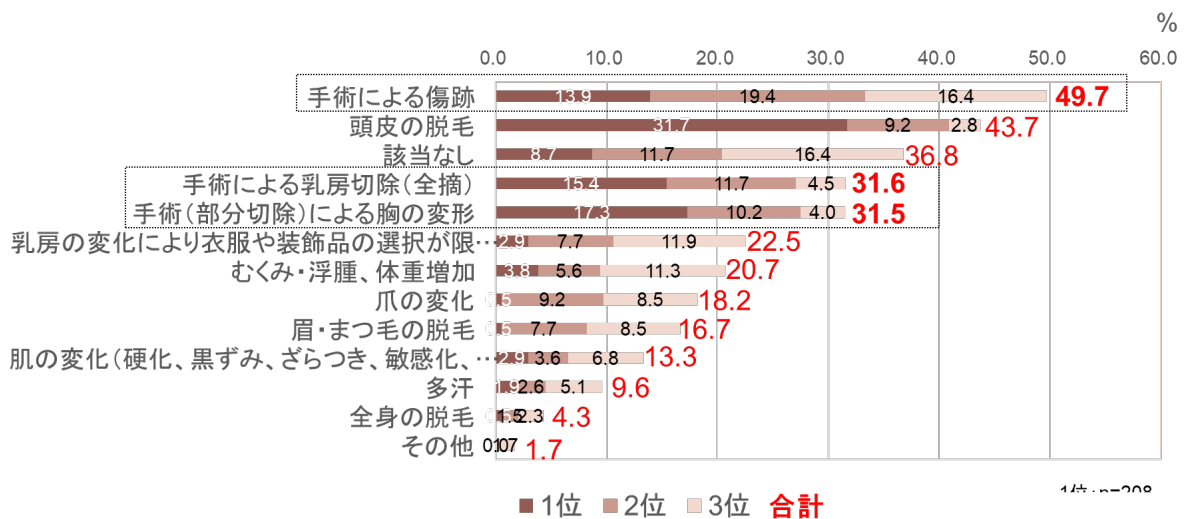
図4

Q 乳がん罹患して生じた外見の変化について、
あてはまるものをすべて教えてください。



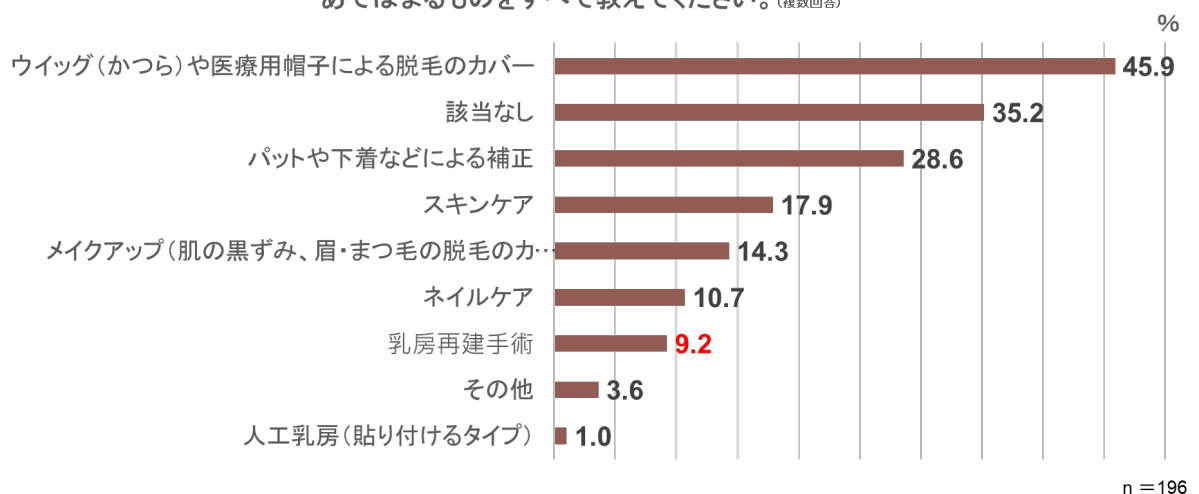
同様に罹患後に気になった外見の変化については、手術による傷跡が49.7%で最多。頭皮の脱毛が43.7%、に次いで、手術による乳房切除(全摘)は31.6%、手術(部分切除)による胸の変形は31.5%と乳房に関する回答が上位に入った一方で、「該当なし」の回答が36.8%でした。

図5 Q 乳がんに罹患してから気になった外見の変化



しかし、外見の変化に対して対処したことの上位は1位:ウイッグ(かつら)や医療用帽子による脱毛のカバー(45.9%)、2位:該当なし(35.2%)、3位:パットや下着などによる補正(28.6%)となり、乳房再建は9.2%と少数派にとどまる結果となりました。

図6 Q 乳がんに罹患して生じた外見の変化に対して行ったことはありますか?
あてはまるものをすべて教えてください。(複数回答)

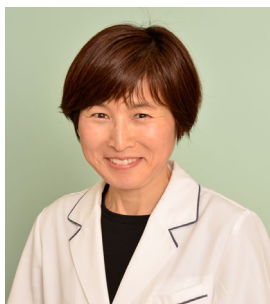


n = 196

医師のコメント

がん研究会 有明病院 乳腺センター 乳腺外科医長

トータルケアセンター サバイバーシップ支援室長・地域連携室長 片岡 明美先生



今回の調査では、乳がん罹患者にとってアピアランスケアそのものの認知は低いものの乳房再建がアピアランスケアのひとつであるという認知が一定数あることがわかりました。ただ、認知はあるもののアピアランスケアとして乳房再建を選択する割合は少数派にとどまっているということもまた見えました。乳房再建はアピアランスケアとしての選択肢のひとつであること、絶対する必要がないということではなく罹患者にとって、今後の人生をどう生きていきたいか、自分自身がどうしたいのかを考えたうえで選択すべきであり、そのために、まずは自由に検討・選択するためのファーストステップとして当事者をはじめ家族や周囲の人間が乳房再建について正しい知識を持つことが大切です。医療従事者として患者さんの隠れたニーズや思いを引き出すことも尽力していきたいです。

患者支援団体からのコメント

NPO 法人 エンパワリング ブレストキャンサー 理事長 真水 美佳氏



乳房再建の保険適用から10年という節目の年を迎えたが、まだまだ乳房再建についての正しい理解が進んでいるとは言い難い現状です。我々E-BeCで実施している調査でも乳房再建を考える際のハードルとして休職しにくいこと、職場に言い出しにくいこと、周囲の反対など家族や周囲の無理解による理由が多くあがっています。その背景には、乳房再建は病気ではないから不要という偏った考えであったり、身体への負担に関する誤った理解などさまざまな理由がありますが罹患者当事者にとって、より自分らしく生きるための選択肢の一つとして、アピアランスケアとしての「乳房再建」の正しい理解を広げ、再建を望む人は誰でも一定水準の再建手術を受けられるよう社会全体の理解と医療の均一化が必要です。

乳房再建術について

乳がんの手術によって命が救われても、胸のふくらみを失うことがあります。傷あとが残るとともに、左右のバランスが悪く肩こりがする、胸パットを使うのがわずらわしいなど、日常生活のなかで不便さや不自由さを感じる患者さんは少なくありません。

「乳房再建術」とは、乳がんの手術で失ったり、変形したりした乳房を新しく作り直すもう1つの手術です。実際に、新しい乳房とともに、女性としての自信を取り戻し、明るく前向きな人生を送っている患者さんが大勢います。乳がんの治療を受ける患者さんにとって、乳がんの手術を受けても、乳房を失っても取り戻せる選択肢があるという希望をもつことは、つらい治療に立ち向かう勇気につながります。

乳房再建術は、乳腺外科医が乳がんの手術を行った後、形成外科医によって行われるチーム医療が展開されています。乳房再建の仕上がりや安全性には、乳がんの治療の方法や患者さん個々の状態が大きく影響するので、再建を検討したい場合は、乳がんの手術前にその希望を乳腺外科医に伝えることが大切です。

乳房再建ナビ URL: <https://nyubo-saiken.com/>

アラガン・エスティックスについて

アッヴィ合同会社 アラガン・エスティックスは、先進の美容医療を牽引する製品およびブランドを開発・製造し、販売しています。私たちの美容医療領域は、ボツリヌス治療やヒアルロン酸注入治療、脂肪冷却による部分痩せ治療、乳房再建関連製品等を中心に多岐に渡っています。私たちは、イノベーション、教育、優れたサービスを一貫して、顧客の皆様のニーズに沿って提供することを目指しています。アラガン・エスティックスの詳細については、公式サイト www.allerganaesthetics.jp をご覧ください。Instagram や美容情報総合サイト www.allerganbeauty.jp でも情報を公開しています。

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製とソリューションの提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、精神・神経疾患、アイケア、さらに美容医療関連のアラガン・エスティックスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。X(旧 Twitter) アカウント@abbvie、Facebook、LinkedIn や Instagram でも情報を公開しています。

日本においては主に、免疫疾患、肝疾患、精神・神経疾患、がん、アイケアの領域、さらに美容医療関連のアラガン・エスティックスのポートフォリオで、製品の開発と提供に取り組んでいます。アッヴィの詳細については、www.abbvie.co.jp をご覧ください。Facebook や YouTube でも情報を公開しています。

Allergan Aesthetics

an AbbVie company



特定非営利活動法人 エンパワリング ブレストキャンサー/E-BeC について

エンパワリング ブレストキャンサー(E-BeC)は、乳がんと宣告され混乱の渦中にある方や手術によって乳房を失い喪失感にとらわれている方に、乳房を取り戻す「乳房再建手術」について正しく知ってもらい、希望と自信をもって生きていくきっかけを提供することを目指して活動している患者支援団体です。

ウェブサイトや出版物による、乳がんおよび乳房再建に関する科学的根拠に基づいた情報提供活動、地域や自治体、医療機関、企業等での講演会やシンポジウム、アンケート調査、イベント等の開催を通じた啓発活動により、乳がん患者さんの悩みや不安、孤立感を解消するとともに、大切な人を支える周りの方にも乳房再建という選択肢に対する理解の拡大を目指します。

URL : <https://www.e-bec.com>